ま　え　が　き

知識基盤社会の到来，グローバル化の進展など急速に社会が変化する中，幅広い知識と柔軟な思考に基づき判断する力や，他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存する力など，変化に対応する能力が求められています。

このような中，一人一人の生きる力を育むことを目指し，基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むとともに，主体的に学習に取り組む態度を養うためには，言語活動の充実を図ることが大切です。このことを通じ，聞く・話す・読む・書くのプロセスを効果的に組み込んだ質の高い授業を実現することが期待されます。

また，言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに，コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあります。言語に関する能力を高めることは，豊かな心を育む上でも重要な意義をもっています。このため，新しい学習指導要領においては，各教科等すべての学習活動を通じて言語活動を充実することを求めています。

本書は，言語活動について，国語科で培った能力を基本に，全ての教科等において充実を図るために，言語活動の充実に関する基本的な考え方や言語の役割を踏まえた言語活動の充実の在り方について解説するとともに，参考となる指導事例を収録しました。

各教育委員会及び各学校において，本書が積極的に活用され，言語活動の一層の充実が図られることを期待しています。

最後に，本書の作成に当たり，多大な御協力をいただいた協力者，事例協力校ほか関係の方々に，心から感謝申し上げます。

平成２６年１月

文部科学省初等中等教育局長

前　川　喜　平

言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】

～　目　　次　～

言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】指導事例一覧・・・（ｉ）（ⅱ）

第１章　言語活動の充実に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

（1）学習指導要領における言語活動の充実

ア　新しい学習指導要領の基本的な考え方

イ　新しい学習指導要領における言語活動の充実

（2）言語活動の充実に関する検討の経緯

（3）各教科等における言語活動の充実の意義

（4）思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動

ア　児童生徒の学力・学習状況

イ　思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

（5）学習評価と言語活動の充実

第２章　言語の役割を踏まえた言語活動の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

（1）知的活動（論理や思考）に関すること

ア　事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること

（ｉ）事実等を正確に理解すること

（ⅱ）他者に的確に分かりやすく伝えること

イ　事実等を解釈し説明するとともに，自分の考えをもつこと，さらに互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

（ｉ）事実等を解釈し，説明することにより自分の考えを深めること

（ⅱ）考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

（2）コミュニケーションや感性・情緒に関すること

ア　互いの存在についての理解を深め，尊重すること

イ　感じたことを言葉にしたり，それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

第3章　言語活動を充実させる指導と事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
（1）生徒の発達の段階等に応じた指導の充実

（2）教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項
◎各学科に共通する各教科
・国語　・地理歴史　・公民
・数学　・理科　・保健体育
・芸術　・外国語　・家庭
・情報
◎主として専門学科において開設される各教科のうち職業に関する各教科
・農業　・工業　・商業
・水産　・家庭　・看護
・情報　・福祉
◎総合的な学習の時間
◎特別活動

（3）指導事例
ア　指導事例の示し方
イ　指導事例の活用
各事例　・・24
◎各学科に共通する各教科
・国語（１７事例）　・地理歴史（６事例）　・公民（４事例）
・数学（６事例）　・理科（４事例）　・保健体育（３事例）
・芸術（４事例）　・外国語（８事例）　・家庭（３事例）
・情報（３事例）
◎主として専門学科において開設される各教科のうち職業に関する各教科
・農業　・工業　・商業
・水産　・家庭　・看護
・情報　・福祉　（各１事例）
◎総合的な学習の時間（６事例）
◎特別活動（２事例）　合計　７４事例

参考資料・・197
・「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」のポイント
・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について【中央教育審議会答申】」（平成２０年１月１７日）（抄）
・「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」事例協力校
・「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】」作成協力者

言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】指導事例一覧

教科等名		科目名	言語活動の特色	単元名	ページ
国語	1	国語総合	1年間を通してスピーチを継続する事例	自分の考えをもち分かりやすく話そう	25
P.24～	2	国語総合	小説を設定を変えて書き換える事例	小説の表現の特色を捉えよう	27
	3	国語総合	模擬裁判を活用して小説を読み深める事例	異なる立場から小説を読み深めよう	29
	4	国語総合	古典（古文）の翻案映像を活用し登場人物へメッセージを送る事例	古文と翻案映像とを比較して古典への興味・関心を広げよう	31
	5	国語総合	古典（古文）を脚本に書き換える事例	歴史物語に描かれた情景や人物の表現の仕方を捉えよう	33
	6	国語総合	古典（漢文）の内容を新聞の形式でまとめる事例	漢文の内容を新聞にしてみよう	35
	7	国語表現	他教科と連携し，相手や目的に応じた文章を書く事例	収集した情報を効果的に報告書にまとめよう	37
	8	現代文A	学校図書館を活用しブックトークの形式で図書資料を紹介する事例	進路を考える上で参考となった図書資料を紹介しよう	39
	9	現代文A	海外で翻訳出版された小説について発表する事例	海外に輸出された日本の小説を読もう	41
	10	現代文A	テーマを設定して小説を読み比べ，批評文を書く事例	恋愛と友情をテーマにした文章を読み比べ，言語文化について理解を深めよう	43
	11	現代文B	話合いや発表を通して小説の読みを深める事例	小説を読んで作者の表現意図を捉えよう	45
	12	現代文B	テレビドラマにすることを想定して小説を読み味わう事例	テレビドラマに関する，新聞のテレビ欄の記事を書こう	47
	13	現代文B	ICTを活用し文字，音声，画像などのメディアを使って表現する事例	ICTを用いて発表資料を作ろう	49
	14	古典A	表現を集め，調べたことをクイズ形式で報告する事例	季語でクイズ大会を開こう	51
	15	古典A	百人一首を通して伝統的な言語文化に親しむ事例	百人一首カルタを楽しもう	53
	16	古典B	古典の現代語訳を読み比べる事例	現代語訳を活用して源氏物語を読み味わおう	55
	17	古典B	古典の言葉の意味の変遷などを調べ，報告する事例	「色の名」について調べ，報告文にまとめよう	57
地理歴史	1	世界史A	考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させる事例	急変する人類社会 ～『八十日間世界一周』から国際的な移民の増加を考える～	61
P.60～	2	世界史B	事実を解釈し，説明することにより自分の考えや集団の考えを深める事例	資料から読み解く歴史の世界 ～南北戦争における奴隷制論争をめぐって～	63
	3	日本史A	資料を活用して調べた成果を互いに発表し探究する事例	現代からの探究 ～身の回りの生活道具を通してみた近現代の人々の生活の変化～	65
	4	日本史B	適切な主題を設定して探究し人物評伝を作成して発表する事例	歴史の論述 ～人物評伝を作成し発表する～	67
	5	地理A	複数の主題図から情報を読み取り，情報を総合した地域区分図を作成する事例	自然環境と防災 ～ハザードマップを「読んで」，私たちの町の防災について考えよう～	69
	6	地理B	適切に統計情報を伝えるため，試行錯誤しながら主題図を作成する事例	地理情報の地図化 ～階級区分図を分かりやすく表現するにはどうすればよいだろう～	71
公民	1	現代社会	資料の解釈や説明に基づいて自分の考えを論述する事例	日本の政治機構と政治参加	75
P.74～	2	現代社会	議論を通して現実社会が抱える課題について説明，論述する事例	政府の経済的役割	77
	3	倫理	生徒間の対話を通して，主体的に人生観・価値観について考察を深めさせる事例	自己実現と幸福　～私にとっての幸福とは？～	79
	4	政治・経済	概念を解釈，説明し，さらに自分の考えを論述する事例	法の下の平等を考える	81
数学	1	数学Ⅰ	結果を予想し，グループでの検討を通して，事象の考察を深める事例	数と式 ～一次不等式～	85
P.84～	2	数学Ⅰ	三角比を活用して具体的な事象を数学的に表現するとともに，筋道立てて説明し処理をする事例	図形と計量 ～図形の計量～	87
	3	数学Ⅰ	数学的に表現したものを他者に伝え，身の回りの事象について考察する事例	二次関数 ～二次関数の最大・最小～	89
	4	数学Ⅰ	数量関係を二次不等式を使って表し，言葉や図を使って説明し，理解を深める事例	二次関数 ～二次方程式・二次不等式～	91
	5	数学Ⅰ	事象の考察において，数学的に表現し解釈し，考えを深めていく事例	データの分析 ～データの散らばり～	93
	6	数学Ⅰ	事象とデータやその分析結果を相互に結び付けながら，判断する事例	データの分析 ～データの相関～	95
理科	1	物理基礎	グラフ指導を充実させ，データの信頼性などについての話合いを活性化する事例	物理量の測定と扱い方	99
P.98～	2	化学基礎	生徒の相互評価による話合い活動の事例	物質量と化学反応式	101
	3	生物基礎	グループでの話合いにより，考察を深めさせる事例	免疫	103
	4	地学基礎	教科書等の資料で自らのテーマについて調べ，発表する事例	プレートの運動（活動する地球）	105

教科等名		科目名等	言語活動の特色	単元名	ページ
保健体育	1	体育	視聴覚機器の活用と話合い活動を通して論理的思考力を育む事例	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	109
P.108～	2	体育	仲間の技術的な課題や練習方法の選択について指摘し合う活動を通して合意形成に貢献し，課題発見・解決能力を育む事例	球技（ゴール型　サッカー）	111
	3	保健	環境と食品の保健について，行政，生産者，消費者などの役割に分かれて話合いを行い，思考力・判断力等を育成する事例	環境と食品の保健	113
芸術	1	音楽Ⅰ	音楽の特徴などを言葉で表すことによって鑑賞を深める事例	歌舞伎の魅力を探ろう	117
P.116～	2	美術Ⅰ	美術作品を比較・検討することを通して美術文化の理解を深める事例	日本の美術の伝統と創造	119
	3	工芸Ⅰ	他者と考えを交流することにより，見方や考えを深める事例	使う人，使う場を考えたカップの制作	121
	4	書道Ⅰ	心に響く言葉を工夫しながら表現し，根拠をもって鑑賞し合う事例	心に響く言葉を表現し，鑑賞し合おう	123
外国語	1	コミュニケーション英語Ⅰ	事物に関する紹介を聞いて概要を捉えるとともに，聞いた内容を応用して話すことに結び付ける事例	Lesson 10　Student　Life in　Sweden	127
P.126～	2	コミュニケーション英語Ⅰ	説明文を読んで概要や要点を的確に理解するとともに，音読したり感想や自分の考えを書いて発表したりする事例	Lesson 6　The Trip That　Changed My Life	129
	3	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報を活用して，グループでプレゼンテーションを行う事例	Lesson 3　Abu　Simbel －Rebirth on the Nile －	131
	4	コミュニケーション英語Ⅰ	学習した語句や表現を利用して，題材内容を発展させた話題についてグループ内で役割を分担して話し合う事例	Lesson 2　Letters to America	133
	5	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で読んだ内容やリサーチをして得た情報に基づいて，問題解決のためのグループ・ディスカッションを行う事例	Lesson 7　Child　Labor	135
	6	コミュニケーション英語Ⅰ	物語を読んで登場人物の気持ちや実際の発話を考え，スキットに書き表してグループで発表する事例	Lesson 4　Quill, the Guide　Dog	137
	7	コミュニケーション英語Ⅰ	教科書で学習した内容に自分で調べて得た情報を加え，事物の特徴や利点を話したり書いたりして説明する事例	Lesson 3　What Is the Greatest　Invention？	139
	8	コミュニケーション英語Ⅰ	読んだ内容に基づいて，自分の考えを英文の段落構造を意識しながら論理的に書いて表現する事例	Lesson 5　Mother　Goes　to Space	141
家庭	1	家庭基礎	ロールプレイを通して，他者と意見を共有し，互いの考えを深める事例	子どもの発達と保育 ―（親の立場になって）子どもとの関わりを考える	145
P.144～	2	家庭総合	グループ活動を通して互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる事例	人の一生と食事 ―ライフステージに合わせた食事のデザイン	147
	3	生活デザイン	資料から情報を読み取り，自分の意見を簡潔にまとめる事例	装いの科学と表現	149
情報	1	社会と情報	情報モラル・倫理学習，プレゼンテーション事例	情報モラルに関する事例を取り上げ，問題解決策について情報通信ネットワークや情報機器を活用して効果的なプレゼンテーションをしよう	153
P.152～	2	社会と情報	ある事柄を異なるメディアで伝えるときの受け止め方の違いを考える事例	直近の大きな出来事が，新聞・テレビ・ラジオ・週刊誌・インターネットなどでどのように報じられるか見直してみよう	155
	3	情報の科学	問題の解法をアルゴリズムで表現し，意見交換を通じてそれを改善する事例	アルゴリズム（問題解決のためのコンピュータの活用）	157
主として専門学科において開設される各教科のうち職業に関する各教科	農業	農業と環境	プロジェクト学習を通じて言語活動の充実を図る事例	トウモロコシの栽培と利用	161
	工業	工業技術基礎	実習（実験）後の結果の予測と得られた結果から，論理的に「話し合う」事例	基礎的な生産技術「生産の流れと技術（工作機械の扱い方）（旋盤による加工））」	163
	商業	ビジネス基礎	考察・討論と実習を組み合わせて実践的な力を育成する事例	ビジネスに対する心構え	165
	水産	水産海洋基礎	基礎実習を活用した言語活動の事例	基礎実習「水産・海洋生物の採集（磯採集）」	167
P.160～	家庭	生活産業基礎	情報を分析・評価し，商品を企画・提案し，表現する事例	生活の変化に対応した商品・サービスの提供 アパレル商品の企画－施設ユニフォームの企画・提案	169
	看護	看護臨地実習	実習体験を考察し，話し合い，発表する事例	基礎看護臨地実習　～実習体験を通して，看護の基礎的な能力と態度を身に付けよう	171
	情報	情報産業と社会	情報技術者の責任について，情報モラルや情報セキュリティについて話し合い，発表することを通じて理解を深める事例	情報モラルと情報セキュリティについて情報技術者が果たすべき責任を考えよう	173
	福祉	介護総合演習	介護実習で体験した事例を基に課題解決能力を育成する事例	事例研究	175
総合的な学習の時間	1		自らの課題について研究した結果を他者に分かりやすく表現し伝える事例	研究と発表	179
P.178～	2		ウェビングマップを使って課題を明らかにしていく事例	探究基礎「序」	181
	3		複数の新聞を比較しながら読み取り，情報を収集する事例	地域を知る・自己を知る	183
	4		立場や論点を明確にしてディベートを行う事例	富士山学におけるディベート	185
	5		フィッシュボーンの活用によって論理的な文章を書く事例	探究基礎「序」	187
	6		相手の立場に立った4つの視点で発表の質を高める事例	課題研究	189
特別活動	1	ホームルーム活動	選択教科・科目等の選択の視点に関する話合い活動の事例	科目選択をする際の視点についての意見交換をしよう	193
P.192～	2	学校行事	体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりする活動の事例	ボランティア活動報告会	195

第１章　言語活動の充実に関する基本的な考え方

（１）学習指導要領における言語活動の充実

ア　新しい学習指導要領の基本的な考え方

知識基盤社会の到来や，グローバル化の進展など急速に社会が変化する中，次代を担う子供たちには，幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや，他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど，変化に対応する能力や資質が一層求められている。一方，国内外の学力調査の結果などにおいて，我が国の子供たちには思考力・判断力・表現力等に課題が指摘されてきた。これら子供たちを取り巻く現状や課題等を踏まえ，平成 17 年 4 月から，中央教育審議会において教育課程の基準全体の見直しについて審議が行われた。

この見直しの検討が進められる一方で，教育基本法，学校教育法が改正され，知・徳・体のバランス（教育基本法第 2 条第 1 号）を重視し，学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定された。さらに，学校教育法第 51 条に規定する高等学校の目標を達成する際に留意しなければならないことが次のように規定された。(高等学校については，同法第 62 条において，第 30 条第 2 項の規定を読み替えて準用している。)

> 第 30 条
> ② 前項の場合においては，生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

ここには，学力の重要な３つの要素が示されている。

① 基礎的・基本的な知識・技能
② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
③ 主体的に学習に取り組む態度

これらを踏まえ，中央教育審議会は平成 20 年 1 月に「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」を答申した（以下，「平成 20 年答申」とする)。この平成 20 年答申においては，学習指導要領の改訂の基本的な考え方として，次の 7 点を示している。

① 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
② 「生きる力」という理念の共有
③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
④ 思考力・判断力・表現力等の育成
⑤ 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保
⑥ 学習意欲の向上や学習習慣の確立

⑦　豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

イ　新しい学習指導要領における言語活動の充実

平成 20 年答申においては，上記の基本的な考え方を踏まえつつ，学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の第 1 として言語活動の充実を挙げ，各教科等を貫く重要な改善の視点として示した。

先の改正学校教育法に示された学力の重要な要素や平成 20 年答申を踏まえ，平成 21 年 3 月に公示された「高等学校学習指導要領」（以下，「新しい学習指導要領」とする。）の総則には，言語活動の充実について，以下のように記述されている。

> 第 1 章　総則
> 第 1 款　教育課程編成の一般方針
> 1（前略）　学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，生徒に生きる力をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際，生徒の発達の段階を考慮して，生徒の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

同じく総則において，教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項について，以下のように示されている。

> 第 5 款　教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項
> 5　教育課程の実施に当たって配慮すべき事項
> (1)　各教科・科目等の指導に当たっては，生徒の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，生徒の言語活動を充実すること。

ここでは，各教科等において思考力，判断力，表現力等を育成する観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語環境を整え，言語活動の充実を図ることに配慮することが求められている。

加えて，新しい学習指導要領では，言語に関する能力を育成する中核的な国語科において，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」のそれぞれに記録，要約，説明，論述，討論といった言語活動を例示した。また，国語科以外の各教科等においても，教科等の特質に応じた言語活動の充実について記述している。

（２）言語活動の充実に関する検討の経緯

今回の学習指導要領改訂に至る検討は，平成 17 年 2 月 15 日の文部科学大臣による中

央教育審議会への審議要請に始まる。その際，「学習指導要領の見直しに当たっての検討課題」として示された 14 項目の中に「国語力の育成」があり，そこでは，「国語力」は「すべての教科の基本」と位置付けられていた。

これより先に，文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（平成 16 年 2 月）においては，「学校教育においては，国語科はもとより，各教科その他の教育活動全体の中で，適切かつ効果的な国語の教育が行われる必要がある。すなわち，国語の教育を学校教育の中核に据えて，全教育課程を編成することが重要であると考えられる」などと指摘されている。

その後，「国語力の育成」は，中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「審議経過報告」（平成 18 年 2 月）等においても中核に位置付けられた。平成 19 年 8 月には，言語力育成協力者会議の「言語力の育成方策について（報告書案）」が中央教育審議会に報告された。同報告書案においては，「言語力は，知識と経験，論理的思考，感性・情緒等を基盤として，自らの考えを深め，他者とコミュニケーションを行うために言語を運用するのに必要な能力」であり，「言語力の育成を図るためには，（中略）学習指導要領の各教科等の見直しの検討に際し，知的活動に関すること，感性・情緒等に関すること，他者とのコミュニケーションに関することに，特に留意すること」などと提言している。

中央教育審議会は，これらを踏まえながら，学習指導要領の全体の在り方や国語力の育成等具体的な内容等を検討し，上記の平成 20 年答申を取りまとめた。

（３）各教科等における言語活動の充実の意義

平成 20 年答申では，言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに，コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり，豊かな心を育む上でも，言語に関する能力を高めていくことが重要であるとしている。このような観点から，新しい学習指導要領においては，言語に関する能力の育成を重視し，各教科等において言語活動を充実することとしている。

国語科においては，これらの言語の果たす役割を踏まえて，的確に理解し，論理的に思考し表現する能力，互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を育成することや我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことが重要である。そのためには，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり，言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに，発達の段階に応じて，記録，要約，説明，論述，討論といった言語活動を行う能力を培う必要がある。

各教科等においては，国語科で培った能力を基本に，それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして，知的活動（論理や思考）やコミュニケーション，感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて，言語活動を充実させる必要がある。

各教科等における言語活動の充実に当たっては，これまでの言語活動を通じた指導について把握・検証した上で，各教科等の目標と指導事項との関連及び児童生徒の発達の段階や言語能力を踏まえて言語活動を計画的に位置付け，授業の構成や指導の在り方自体を工夫・改善していくことが求められる。そのために，各学校における教科間の関連や学年を超えた系統的で意図的，計画的な言語活動が実施されるよう，カリキュラム･マネジメントを適切に行うことが求められる。特に，教科担任制を原則とする中学校，高等学校の国

語科以外の教師は，これらの点を理解することが重要である。

さらに，各教科等の指導に当たっては，児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫することが重要である。その際，自校や他校においてこれまでに実践された優れた言語活動の指導事例を参照することも有効である。また，語彙や表現を豊かにするために適切な教材を取り上げること，教育活動全体を通じた読書活動を推進すること，学校図書館を計画的に利活用すること，学校における言語環境を整備することなどにも留意することが重要である。

（４）思考力･判断力･表現力等の育成と言語活動

ア　児童生徒の学力・学習状況

国立教育政策研究所の平成 15 年度小・中学校教育課程実施状況調査の結果においては，基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心に一定の成果が認められるものの，国語の記述式の問題の正答率が低下するなどの課題が見られた。また，平成 17 年度高等学校教育課程実施状況調査の結果においては，自らの考えを表現することや考察することなどに課題が見られた教科もあった。

平成 15 年に実施された経済協力開発機構（OECD）の PISA 調査[*1] の結果からは，我が国の子供たちの学力は，全体としては国際的に上位にあるものの，読解力の低い層の生徒の割合が増加したことや記述式問題に課題があることなどが指摘された。平成 18 年の PISA 調査の結果においては，読解力については平成 15 年の調査結果と同程度であったこと，数学的リテラシーの平均得点が低下したこと，科学への興味・関心や楽しさを感じている生徒の割合が低いことなどの課題が指摘された。

続く平成 21 年に実施された PISA 調査の結果においては，読解力，科学的リテラシーは上位グループにあること，数学的リテラシーは OECD 平均より高得点グループに位置していることが示された。このうち，読解力については，前回（平成 18 年）と比べて平均得点が大幅に上昇するなど改善傾向が見られた。これらは，生徒本人はもとより，家庭，各学校，地方公共団体が一体となって学力向上に取り組んだ成果の表れだと考えられる。

その一方で，各リテラシーともに，世界トップレベルの国々と比べると依然として成績下位層の生徒の割合が多いことが示された。また，読解力については，必要な情報を見付け出し取り出すこと（「情報へのアクセス・取り出し」）は得意であるものの，情報相互の関係性を理解して解釈したり，自らの知識や経験と結び付けたりすること（「統合・解釈」「熟考・評価」）が苦手であることが指摘された。

また，小・中学校の平成 22 年度全国学力・学習状況調査の結果において ，例えば，資

---

*1　Programme for International Student Assessment（PISA：ピザ）の略。生徒の学習到達度調査と訳される。経済協力開発機構（OECD）が実施。主に，読解力，数学的リテラシー，科学的リテラシーの３分野について調査を実施。PISA において，読解力とは「自らの目標を達成し，自らの知識と可能性を発達させ，効果的に社会に参加するために，書かれたテキストを理解し，利用し，熟考し，これに取り組む能力」と定義されており，側面別には，「情報へのアクセス・取り出し」「統合・解釈」「熟考・評価」の３つに分類し，到達度を測定。

料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること，日常的な事象について，筋道を立てて考え，数学的に表現することなど，思考力・判断力・表現力等といった「活用」に関する記述式問題を中心に課題が見られた。さらに，知識に関する問題においても引き続き課題が見られるなど，知識を活用する力を育成することと合わせ，基礎的・基本的な知識・技能も定着させることが重要であることが指摘された。（平成 22 年度全国学力・学習状況調査調査結果のポイント）

なお，小・中学校の平成 21 年度全国学力・学習状況調査の結果において，「国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしている」と回答している児童生徒の国語の記述式問題の正答率と，「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と回答している児童生徒の算数・数学の記述式問題の正答率は高い傾向が見られた（平成 21 年度全国学力・学習状況調査【小学校】報告書，平成 21 年度全国学力・学習状況調査【中学校】報告書）。

イ　思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

このように，学力に関する各種の調査の結果により，我が国の子供たちの思考力・判断力・表現力等には依然課題があることが指摘されてきた。これらに加え，課題発見・解決能力，論理的思考力，コミュニケーション能力や多様な観点から考察する能力（クリティカル・シンキング）などの育成・習得が求められてきた[*2]。

平成 20 年答申においては，思考力・判断力・表現力等を育むためには，例えば，次のような学習活動が重要であり，このような活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしている。

① 体験から感じ取ったことを表現する

（例）・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌，絵，身体などを用いて表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

（例）・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

③ 概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする

（例）・需要，供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす

・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④ 情報を分析・評価し，論述する

（例）・学習や生活上の課題について，事柄を比較する，分類する，関連付けるなど考えるための技法を活用し，課題を整理する

・文章や資料を読んだ上で，自分の知識や経験に照らし合わせて，自分なりの考えをまとめて A4・１枚（1000 字程度）といった所与の条件の中で表現する

・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり，これらを用いて分かりやすく表現したりする

・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ，分析したことを論述する

*2　『新成長戦略』「成長戦略実行計画（工程表）」平成 22 年 6 月 18 日閣議決定など

⑤ 課題について，構想を立て実践し，評価・改善する

（例）・理科の調査研究において，仮説を立てて，観察・実験を行い，その結果を整理し，考察し，まとめ，表現したり改善したりする

・芸術表現やものづくり等において，構想を練り，創作活動を行い，その結果を評価し，工夫・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる

（例）・予想や仮説の検証方法を考察する場面で，予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う

・将来の予測に関する問題などにおいて，問答やディベートの形式を用いて議論を深め，より高次の解決策に至る経験をさせる

さらに，これらの学習活動の基盤となるものは，数式などを含む広い意味での言語であり，言語を通した学習活動を充実することにより「思考力・判断力・表現力等」の育成が効果的に図られることから，いずれの各教科等においても，記録，要約，説明，論述，討論などの言語活動を発達の段階に応じて行うことが重要だとしている。

（５）学習評価と言語活動の充実

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成 22 年 3 月 24 日）（以下，「報告」とする。）を受け，文部科学省は，平成 22 年 5 月 11 日付け 22 文科初第 1 号「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」を発出し，新しい学習指導要領の趣旨等を踏まえた学習評価の在り方を示した。

上述のとおり，新しい学習指導要領においては，思考力・判断力・表現力等を育成するため，基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習活動を重視することとし，その際特に，知的活動（論理や思考）やコミュニケーション，感性・情緒の基盤となる言語の重要性を踏まえて，言語活動を充実することとしている。

報告は，これらの能力の実現状況を適切に評価し，一層育成していくために，学習評価についての基本的な考え方を整理し，評価の観点等の具体的な手立てを工夫することを提言した。すなわち，各教科の内容等に即して思考・判断したことを，表現する活動と一体的に評価する観点（以下，「思考・判断・表現」とする。）を設定することとし，観点別学習状況の観点については，従来の「思考・判断」を「思考・判断・表現」と改めることとした。そして，この「思考・判断・表現」の観点については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容等に即して思考・判断したことを，説明，論述，討論等といった言語活動等を通じて，思考・判断の過程を含めて評価するものであることに留意する必要があるとしている。

学習指導の改善や教育課程全体の改善につながる学習評価の意義・目的を踏まえ，言語活動を通して育成する，思考力・判断力・表現力等について，各教科の対応する観点において適切に評価することが求められる。

第２章　言語の役割を踏まえた言語活動の充実

第１章（３）にあるとおり，平成 20 年答申において，言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに，コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされている。このため，各教科等において言語活動を充実する際には，このような言語の果たす役割を踏まえた指導を行うことが大切である。また，言語活動が単に活動することに終始することのないよう，各教科等のねらいを言語活動を通じて実現するために意図的，計画的に指導することが重要である。以下，言語の役割を踏まえた，高等学校における言語活動の指導の在り方と留意点について整理する。

（１）知的活動（論理や思考）に関すること

各教科等の指導において論理や思考といった知的活動を行う際，次のような言語活動を充実する。

○　事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること

○　事実等を解釈するとともに，自分の考えをもつこと，さらにそれを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

これらの指導に当たっての留意点を例示する。

ア　事実等を正確に理解し，他者に的確に分かりやすく伝えること

（ｉ）事実等を正確に理解すること

事実や他者の意見を正確に理解するためには，主観にとらわれず，事実等と意見や考えなどを明確に区別することが必要になる。

特に，複雑な事実等については，解釈のための視点がないと理解することは難しい。そこで，事実等を正確に理解するために，事実等の内容について，例えば５Ｗ１Ｈ（いつ，どこで，誰が，何を，なぜ，どのように）など，どのような点に着目して理解するか，視点をもつことが必要である。そうした視点に応じて事実等の対象から情報を適切に取り出すことによって，事実等を正確に理解することができるようになる。

事実等を正確に理解するための指導を行う際には，①生徒が理解するに当たって，視点をもたせるようにすること，②設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにすることなどに留意することが大切である。

（ⅱ）他者に的確に分かりやすく伝えること

理解した事実等を他者に的確に分かりやすく伝えるためには，自分や聞き手・読み手の目的や意図に照らして事実等を整理し，明確に伝えることが必要である。

そのため，的確に分かりやすく伝えるように指導をする際には，①自分や伝える相手の目的や意図を捉えるようにすること，②目的や意図に応じて事実等を整理できるようにすること，③構成や表現を工夫しながら伝えられるようにすることに留意することが大切である。

イ　事実等を解釈し説明するとともに，自分の考えをもつこと，さらに互いの考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

（ｉ）事実等を解釈し，説明することにより自分の考えを深めること

事実等を正確に理解した後，それを自分の知識や経験と結び付けて解釈することによって自分の考えをもつこと，さらにその自分の考えについて，理由や立場を明確にして説明することなどを通じて，自分の考えを深めていくことが重要である。

また，他者の考えを認識しつつ自分の考えについて前提条件やその適用範囲などを振り返るとともに，他者の考えと比較，分類，関連付けなどを行うことで，多様な観点からその妥当性や信頼性を吟味し，考えを深めること，すなわちクリティカル・シンキングも大切になる。

そのため，自分の考えを深める指導を行う際には，①事実等を知識や経験と結び付けて解釈し，自分の考えをもたせるようにすること，②自分の考えについて，探究的態度をもって意見と根拠，原因と結果などの関係を意識し，説明する際にはそれを明確に示すこと，③自分の考えと他者の考えの違いを捉え，それらの妥当性や信頼性を吟味したり，異なる視点から検討したりして振り返るようにすることなどに留意することが大切である。

（ⅱ）考えを伝え合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させること

考えを伝え合うことは，自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かしたり，相手の立場や考えを考慮し，尊重したりすることで自らの考えや集団の考えを発展させることにつながる。

そのためには，集団の中で生徒がそれぞれの考えを表明し合うことを通じて，いろいろなものの見方や考えがあることに気付き，それぞれの考えの根拠や前提条件の違い，特徴などを捉えることが重要である。また，それぞれの考えの違いや特徴を確認し合いながら，それらの考えを整理することを通じて，更に自分や集団の考えを振り返り，考えを深めることが重要である。

このため，考えを伝え合う指導をする際は，（ｉ）にあるように，自分の考えや意見をもち，深めることを前提としつつ，①考えを伝え合う中でいろいろな考えや意見があることに気付くことができるようにすること，②それらの考えには根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにすること，③それぞれの考えの異同を整理して，更に自分の考えや集団の考えを発展させることができるようにすることなどに留意することが大切である。

（２）コミュニケーションや感性・情緒に関すること

各教科等において，コミュニケーションに関する指導を行う際には，他者との対話を通して考えを明確にし，自己を表現し，他者を尊重し理解するなど互いの存在についての理解を深めるような言語活動を充実する。

各教科等において，感性や情緒に関する指導を行う際には，体験したことや事象との関わり，人間関係，所属する文化の中で感じたことなどを言葉にしたり，それらの言葉を互いに伝え合ったりするような言語活動を充実する。

ア　互いの存在についての理解を深め，尊重すること

よりよい生活や人間関係を築くためには，自分や他者の思いや考えを共通の目的の下

に整理して，互いに理解し合うといったコミュニケーションが重要である。しかし，近年，自分や他者の思いや考えを表現したり受け止めたりする語彙力や表現力が乏しいことにより，他者と適切な関係がとれなくなったり，容易に「キレて」しまったりする生徒が見られるとの指摘がある。

良好なコミュニケーションを図るためには，思いや考えを表現するための語彙を豊かにし，表現力を身に付けることが重要である。また，自分の思いや考えをもちつつそれを相手に伝えるとともに，相手の思いや考えを理解し，尊重しようとすることも大切である。その上で，自分と相手の思いや考えについて，「何が同じ」で「何が異なるか」という視点で整理しながら，相手の話をしっかり聞き取り，受け止めるようにするとともに，納得したり，合意したり，折り合いを付けたりするなど，状況に応じて的確に反応することができるようにすることも大切である。

このため，コミュニケーションに関する指導を行う際には，①語彙を豊かにし，表現力を育むこと，②自分の思いや考えを伝えようとするとともに，相手の思いや考えを理解し尊重できるようにすること，③自分の思いや考えの違いを整理しつつ，相手の話を聞き，受け止めることができるようにすること，④相手の話に対して，状況に応じて的確に反応できるようにすることなどに留意することが大切である。

なお，コミュニケーションについては，（１）イ（ⅱ）の知的活動において考えを伝え合うことも含むが，ここでは主として人間関係の構築等を目的とした活動について整理している。

イ　感じたことを言葉にしたり，それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

感性・情緒は，事象との関わりや他者との人間関係，所属する文化などの中で感じたことを言葉にしたり，心のこもった言葉を交わし合ったりすることによって一層育まれていくものである。そのような豊かな感性・情緒を通して，良好な人間関係を築くことにもつながる。

なお，論理と情緒とが対立する問題として捉えられることがあるが，必ずしも適当ではない。物事を直観的に捉えるだけではなく，分析的に捉えることも情緒を豊かにしていく上で有効である。例えば，単に「ワァー，すごい」という言葉だけで感情表現するのではなく，「何が」「どのように」「すばらしい」のかについて，具体的な表現を用いて相互に伝え合うことにより，より細やかな感性・情緒を実感できるようになる。

このようなことから，感性・情緒等に関する指導を行う際，①様々な事象に触れさせたり体験させるようにすること，②感性・情緒に関わる言葉を理解するようにすること，③事象や体験等について，より豊かな表現，より論理的で的確な表現を通して互いに交流するようにすることが大切である。

第３章　言語活動を充実させる指導と事例

（１）生徒の発達の段階等に応じた指導の充実

高等学校における教育には，義務教育の成果を更に発展拡充させ，国家及び社会の形成者としての必要な資質を養い，学問研究や技術の習得に結び付けていくことが求められている。そのためには，高等学校においても小・中学校と同様に，各教科・科目等において，基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに，知識・技能を活用する学習活動，とりわけ記録，要約，説明，論述，討論といった言語活動を発達の段階に応じて行い，社会について，広く深い理解と健全な批判力を養っていくことが重要である。

先に示した中学校版の指導事例集においては，次のような点を重視するよう求めている。

- 帰納・類推，演繹などの推論を用いて，説明し伝え合う活動を行う。
- 日常生活の中で気付いた問題について，自分の意見をまとめ説得力ある発表をする。
- 社会生活の中から話題を決め，それぞれの視点や考えを明らかにし，資料などを活用して話し合う。
- グループで協同的に問題を解決するため，学習の見通しを立てたり，調査や観察等の結果を分析し解釈したりする話合いを行う。
- 新聞，読み物，統計その他の資料を基に，根拠に基づいて考えをまとめ報告書を作成する。
- 実験や観察の結果，調査結果などを整理し重点化し，相手に分かりやすく，ポスターやプレゼンテーション資料などに表現する。
- テーマを決めて複数の本や資料などを読み，内容を比較したり，批判的にとらえたりするなど，知識や考えを深める。

高等学校では，これを踏まえて，高校生としての学習活動にふさわしい言語活動を着実に行う必要がある。

現在，高等学校には多様な生徒が在籍しており，学習指導要領の規定も，共通性を維持しつつも，一定の弾力性をもっている。言語活動の充実についても，このような高等学校教育の共通性と多様性のバランスに配慮しつつ，義務教育段階での学習内容の確実な定着を図り，多様な内容を様々な方法で学ぶという点から捉える必要がある。

このことも踏まえ，生徒の実態に応じて，高等学校において取り上げる言語活動としては，例えば，次のような点に留意する必要がある。

- 現代の社会生活で必要とされる実用的な文章を読んで内容を理解し，自分の考えをもって話し合う。
- 文字，音声，画像などのメディアによって表現された情報を，課題に応じて取捨選択してまとめる。
- 授業のまとめとして，その時間のポイントなどを説明する。
- 課題についての自分の考え方を板書し，どのようにすればよりよい考えや表現になるかを考える。
- 適切な主題を設定し，資料を活用して探究し，考えを論述する。
- 観察，実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出し，表現する。
- 学習の成果を互いに伝え合ったり，助言し合ったりして，新たな追究に向かう。

・　自己評価や相互評価を通して，自己の変容を確認する。

（２）教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項

高等学校における言語活動は，義務教育段階で身に付けた言語に関する能力，高等学校国語で指導する内容等を基本に，各学科に共通する各教科・科目や主として専門学科において開設される各教科・科目など，全ての教科・科目等において充実する必要がある。なお，主として専門学科において開設される各教科・科目のうち職業に関する各教科・科目についても，実習（実験）等において，言語活動を行うことが大切である。その際，各教科・科目等の特質を踏まえつつ，言語活動を通じて意図的，計画的に指導するということに留意し，国語の各科目との関連も図りながら言語活動を行っていくことが求められる。

そのためには，例えば，思考力，判断力，表現力等に係るどのような力を育むために，それにふさわしいどのような言語活動を，どの場面で行うのか等を，各教科・科目等の指導計画に明確に位置付けることが求められる。そして，実際の指導では，教師のみならず生徒も言語活動についてその目的を意識しながら学習に取り組むことができるようにする工夫が必要となる。このことを通じて，各教科・科目等の授業の構成や進め方自体が改善され，主体的に学習に取り組み，生涯にわたる学習の基盤を培うことにもつながる。

◎各学科に共通する各教科

＜ 国　語 ＞

国語科においては，学習指導要領に示されている国語の各科目の内容の(1)に示す指導事項を，内容の(2)に示す言語活動例を通して指導することとしている。

このことは，「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」の指導（関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導を含む。），「読むこと」における，近代以降の文章を教材として扱う指導，古典を教材として扱う指導など，国語の全ての指導に共通する。

言語活動を取り上げる際には，それが目標としている言語能力を育成するのにふさわしい学習活動かどうかを十分に吟味する必要がある。このため，国語科における言語活動は，指導過程を考える上で重要な位置を占めることになる。実際に単元の指導と評価の計画を作成する過程では，次の②に言語活動が位置付けられる。

①　当該単元の目標を設定し，単元の評価規準を設定する。
②　目標を実現するのにふさわしい言語活動，教材を取り上げる。
③　当該単元の授業で実際に用いる具体的な評価規準を設定する。
④　当該単元の各次における指導と評価の展開を計画する。

国語の指導において言語活動を充実するためには，不断の見直しが大切である。そこで，授業の展開がうまくいかない，目標に照らして生徒の実現の状況が芳しくないというような場合には，取り上げた言語活動が適切であったかどうかを見直し，改善する必要がある。

学習指導要領の内容の(2)に示しているものは，中学校までも含めて既に指導している

ことである。また，例として示しているので，これらの全てを行わなければならないものではなく，それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

＜ 地理歴史 ＞

地理歴史科においては，習得した知識，概念や技能を活用して，世界や日本の歴史的事象や地理的事象，現代社会の諸事象について考察し，その内容を説明したり自分の考えを論述したりする学習活動を充実する。

○ 「世界史Ａ」及び「世界史Ｂ」においては，世界史学習のまとめとして，現代の課題に関する適切な主題を設定させ探究する学習を設け，諸資料の活用，論述，討論などの学習活動を充実する。また「世界史Ｂ」においては，上記の学習のほかに，時間軸や空間軸，資料の読解などに関わる主題を設定して行う学習を設けて，言語活動の充実を図る。

○ 「日本史Ａ」においては，歴史を考察し表現する学習のまとめとして，近代と現代の学習を踏まえ，適切な主題を設定し追究・探究して考えを表現する学習活動を充実する。「日本史Ｂ」においては，同じく，資料に基づいて歴史を解釈する学習や歴史的解釈が複数成り立つ背景を説明する学習などを踏まえ，適切な主題を設定し資料を活用して探究し考えを論述する学習活動を充実する。

○ 「地理Ａ」及び「地理Ｂ」においては，各科目ともに項目の内容に即して適宜言語活動の充実を図るとともに，特に各科目最後の項目では，それまでの学習成果を活用して，生活圏や我が国が抱える地理的な諸課題を捉え，その解決に向けた取組などについて探究する中で，地図を有効に活用して事象を説明したり，自分の解釈を加えて論述したり，討論したりするなどの学習活動を充実する。

＜ 公　民 ＞

公民科においては，現代の社会的事象と人間としての在り方生き方に関する基礎的な知識，概念や技能を習得するとともに，有用な情報を適切に収集・選択・活用して，社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて，広い視野に立って多面的・多角的に考察し，公正に判断するとともに適切に表現する学習活動を充実する。

○ 「現代社会」においては，習得した知識，概念や技能を活用して，社会的事象について倫理，社会，文化，法，経済，国際社会など多様な角度から考察し説明するとともに，科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり，説明したり，論述したりするなど課題を探究する学習活動を充実する。

○ 「倫理」においては，先哲の考え方・生き方などについて習得した知識，概念や技能を活用して，現代の倫理的諸課題について自己の課題とつなげて考察し探究するとともに，自己の確立を促すように主体的に考え自分の意見を整理して発表したり，異なった意見をもつ人と議論したりするなどの学習活動を充実する。

○ 「政治・経済」においては，習得した知識，概念や技能を活用して政治や経済に関わる課題を探究し，資料を適切に読み取り，解釈して自分の考えを導き出し，その過程や結果を説明したり論述したりする学習活動を充実する。

＜ 数　学 ＞

数学科においては，生徒が学習した数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて適切に判断することができるよう，数学における基本的な概念などの理解を深めるとともに，事象を数学的に考察・処理し，その過程を振り返って得られた結果の意義を考えたり，自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにして説明したり議論したりする学習活動を充実する。

○　数学における基本的な概念などについて，具体例を工夫するなどして概念の意味理解を深める学習活動を充実する。

○　生徒の誤りや疑問を積極的に取り上げ，それを解決することを通して理解を深める学習活動を充実する。

○　具体的な事象から課題を設定したり，コンピュータを活用するなどして結果を予想させたりする学習活動を充実する。

○　思考の過程や判断の根拠などを数学的に表現したり，数学的に表現されたものを比較してよりよい表現に改めたりする学習活動を充実する。

＜ 理　科 ＞

理科においては，科学的な思考力や判断力，表現力を育成する観点から，観察，実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す学習活動及びそれらを表現する学習活動を充実する。

○　このためには，まず年間の指導計画を見通して，観察や実験などを十分に行い，生徒が結果を分析して解釈して自らの考えを導き出す機会やそれらを行うための時間を確保することが必要である。

○　観察，実験などの結果を分析し解釈させる際には，生徒に観察や実験の目的を十分理解させ，生徒が観察や実験に主体的に取り組むようにすることが求められる。このため，例えば生徒自身に実験の計画を立てさせたり，既習の知識や予備的な実験に基づいて実験結果を予想させたり，仮説を設定させたりすることなどが重要である。

　これらの学習活動を行う際には，科学的な思考力や判断力を育成する観点から，生徒一人一人にじっくり考えさせるとともに，グループで協議させた後，自らの考えをまとめさせることも考えられる。

○　自らの考えを表現させる際には，観察や実験で得られた結果と考察とを意識して区別しながら表現させることが大切である。また，口頭での発表，プレゼンテーション，報告書の作成など，多様な表現活動の機会を設定することが大切である。報告書を作成させる際には，その見通しをもたせるため，例えば，前年度の報告書などを参考として提示し，活用させることが考えられる。

　生徒が話合いに慣れていないときには，ノートに自分の考えたことを記載させてから発言させたり，少人数のグループ内で協議したのち，クラス全体に発表させたりするなど，生徒が円滑に話合いに参加できるよう工夫することが大切である。

＜ 保健体育 ＞

保健体育科においては，生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを継

続する資質や能力の育成を図る観点から，主に体を動かす活動を通して，コミュニケーションや感性・情緒に関する学習活動及び知的活動を充実する。また，健康・安全に関する知識を活用する学習活動を充実する。

○　「体育」においては，各運動場面で，体を動かす機会を適切に確保した上で，相手や仲間のよい演技を讃え合う，互いに助け合い高め合う，合意形成に貢献するなどのコミュニケーションを図る学習活動を充実する。また，例えば，自己に応じた目標の設定，目標を達成するための課題の設定，課題解決に向けた練習法などの選択と実践，演技や発表を通した学習成果の確認，新たな目標の設定といった課題解決の方法を活用するなど，知識を実践に活用する学習活動を充実する。

○　「保健」においては，健康に関する資料等で調べたことを基に話し合い，個人や社会生活における健康・安全に関する課題を把握したり，解決の方法を整理したりするなどの学習活動を充実する。また，健康に関わる概念や原則を基に，自分たちの生活や事例と比較したり，分類したり，分析したりしたことについて，筋道を立てて説明するなどの学習活動を充実する。

＜ 芸　術 ＞

（ 音　楽 ）

芸術科（音楽）においては，創意工夫して音楽表現をする能力や味わって聴く能力を育成する観点から，音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，例えば，表現領域では自己の表現意図を言葉で表したり，鑑賞領域では根拠をもって批評したりする学習活動を充実する。

○　音によるコミュニケーションの充実を図るため，音楽に対するイメージ，思い，意図などを相互に伝え合う活動を位置付けて，仲間とともに創意工夫して音楽を表現する喜びを味わうようにしたり，鑑賞した音楽に対する多様な感じ取り方があることを理解し，一人一人の音楽に対する意識を広げたりすることができるようにする。

○　言葉と音楽との関係を重視する観点から，歌唱表現において，歌詞の内容や言葉の特徴を生かして歌ったり，日本語のもつ美しさを味わったりする学習活動を充実する。

○　鑑賞の能力を育むために，音楽を形づくっている要素や構造などを客観的な理由として挙げながら，それらと曲想との関わりや，楽曲や演奏に対する自分なりの評価などを述べる活動を位置付けて，主体的，創造的に味わって聴くことができるようにする。

（ 美　術 ）

芸術科（美術）においては，表現や鑑賞の能力を育成する観点から，感じ取ったことや考えたこと，目的，機能などを基に主題を生成し，創造的な構想を練ったり，作品についてお互いに批評し合ったりするなどして，作品の理解を深めるなどの学習活動を充実する。

○　表現においては発想や構想の能力を高めるために，スケッチやデッサンを活用したり，図式化や言葉により思いや考えを整理したりするなどの学習活動を充実する。

○　鑑賞においては鑑賞の能力を高めるために，美術作品やお互いの作品について批評し合い討論するなどして，自他の見方や感じ方の相違などを理解し，見方や感じ方を広げ，作品に対する理解を深めるなどの学習活動を充実する。

（ 工　芸 ）

芸術科（工芸）においては，表現や鑑賞の能力を育成する観点から，自己の思いや使う人の願いなどを考えて心豊かな発想をし，創造的な構想を練ったり，作品についてお互いに批評し合ったりするなどして，作品の理解を深めるなどの学習活動を充実する。

○　表現においては発想や構想の能力を高めるために，スケッチや図面にして検討したり，模型を試作して確かめたりすることや，生徒間で意見を交流したり，言葉により考えを整理したりするなどの学習活動を充実する。

○　鑑賞においては，鑑賞の能力を高めるために，工芸作品やお互いの作品について批評し合い討論するなどして，自他の見方や感じ方の相違などを理解し，見方や感じ方を広げ，作品に対する理解を深めるなどの学習活動を充実する。

（ 書　道 ）

芸術科（書道）においては，表現や鑑賞の能力を育成する観点から，書こうとする言葉（素材）や意図にふさわしい表現を，書の古典を踏まえながら構想，工夫したり，制作過程で意見を交換して表現の深化を図ったり，作品について互いに根拠をもって批評し合ったりする学習活動を充実する。

○　書こうとする言葉（素材）の選定場面において，自分の心に響く言葉（素材）を選ぶようにし，その内容にふさわしい表現を構想，工夫する。

○　書の古典のもつよさや美しさを感受し，それを言葉で表現したり，評価したりする活動を通して，書の見方を広げ，書の伝統と文化について理解を深める鑑賞活動を充実する。

○　作品の制作過程において，作品の制作意図や表現の工夫について意見を交換したり，完成した作品について互いに批評し合ったりする学習活動を充実する。

＜ 外国語 ＞

外国語科においては，外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を育成する観点から，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能の総合的な指導を通して，これらの４技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する言語活動を充実する。

○　生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする。その際，生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮する。

○　コミュニケーション能力を養うために，生徒が実際に情報や考えなどの受け手や送り手となってコミュニケーションを行う言語活動を充実する。その際，言語の使用場面（「特有の表現がよく使われる場面」，「生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面」など）や言語の働き（「コミュニケーションを円滑にする」，「気持ちを伝える」など）を適切に組み合わせることにより，各言語活動が効果的なものとなるよう留意する。

○　「聞くこと」及び「読むこと」については，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを理解したり，概要や要点を捉えたりする言語活動を充実する。

○　「話すこと」及び「書くこと」については，聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりすることや，簡潔に書くことなどの統合的な言語活動を充実する。
○　ワークシートなどの補助資料を効果的に用いることによって，各言語活動が円滑に進むように工夫する。
○　文法については，コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，文法の用語や用法等に関する説明は必要最小限としつつ，当該文法を実際に用いて言語活動を行うことによって，文法をコミュニケーションに活用することができるようにするための指導を行うことに留意する。

＜ 家　庭 ＞

家庭科においては，学習した知識及び技術を活用して生活に関わる諸問題を解決する能力を育む観点から，実践的・体験的な学習を通して衣食住，家族，保育，消費，環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解する学習活動や，それらに関わる知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決に活用するなどの学習活動を充実する。

特に，学習した知識と技術を生かして，自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し，解決方法を考え，計画を立てて実践することを通して生活を科学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付けさせることを目的とする，「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を充実する。
○　合理的な判断力や創造的思考力，問題解決能力の育成を図るため，衣食住などの生活における様々な事象や科学性を説明する活動や判断が必要な場面を設けて理由や根拠を論述したり，正解が一つに絞れない課題を考える際，最適な解決方法を探究したりする学習活動を充実する。
○　乳幼児との触れ合いや高齢者との交流等を通して自己の考えを明確にし，自己を表現し，他者を理解し，他者と意見を共有し，互いの考えを深めることなどの協同的な関係を築く学習活動を充実する。
○　衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を一層重視し，その過程で様々な語彙の意味を実感を伴って理解させる学習活動を充実する。

＜ 情　報 ＞

情報科においては，情報活用能力を育むことをねらいとし，習得した情報に関する知識・技能や科学的な見方・考え方などを活用して，高度に情報化した社会に積極的に参画したり，その発展に寄与したりすることができる能力・態度の育成を重視する。言語活動を取り上げる際には，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合う学習活動を取り入れ，言語などを活用して，新たな情報を創り出したり，分かりやすく情報を表現したり，正しく伝達したり，他者と共同して問題を適切に解決する学習活動を充実する。

その際，「情報教育が目指している情報活用能力をはぐくむことは，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに，発表，記録，要約，報告といった知識・技能を活用して行う言語活動の基盤となるものである。」という平成 20 年答申の提言の趣旨を十分に踏

まえた学習活動とする必要がある。

○　「社会と情報」においては，情報手段などを適切に活用して情報を収集，処理，表現するとともに効果的なコミュニケーションを行うために必要な基礎的な知識・技能を習得させるために，情報手段等の目的に応じた適切な選択，情報の信憑性や著作権への配慮の必要性・重要性，望ましい情報社会の在り方と情報技術の適切な活用等について，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うなどの学習活動を充実する。

○　「情報の科学」においては，情報や情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させるために，複数の問題解決策の考案と目的・状況に応じた解決策の選択，問題解決の過程と結果の評価・改善，情報技術の進展が社会に果たす役割と影響等について，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うなどの学習活動を充実する。

◎主として専門学科において開設される各教科のうち職業に関する各教科

＜ 農　業 ＞

農業科においては，農業の各分野についての興味・関心を高め，身に付けた知識，技術の定着を図るとともに，それらを用いて，諸課題について，主体的，合理的，かつ倫理観をもって解決する実践的な学習を通じて言語活動を活性化させ，言語能力を高める。

○　実習（実験）においては，事前学習を徹底し，何のために行うのか（意義），どのように行うのか（方法）について，安全管理を含め，言語での理解と言語活動によるグループ内での共有化を図る。また，結果の予測，結果の記録，そして結果に関する考察をグループ内での話合いを通してまとめていくなどの学習活動を充実する。

○　報告書の作成においては図書館や ICT などを活用し，得られた事実を正確に記述することとそれらを基に自分の考察した内容を分かりやすく表現することにより，まとめ上げる力の向上に留意する。

○　発表活動においては，自分がまとめ上げた内容，伝えたい内容をいかに相手に分かりやすく理解してもらえるかに留意した発表方法を工夫する。質疑応答においても，質問者は発表内容を理解の上，疑問点を分かりやすく伝え，回答者は質問内容を理解した上で論理的な回答をすることで，コミュニケーション能力の向上も図る。

＜ 工　業 ＞

工業科においては，工業の各分野に関する実践的なものづくりを通して身に付けた知識，技術及び技能を確実に習得させ活用する能力を育成する観点から，実習（実験）におけるグループでの活動などを通して論理的に討議するなどの言語活動を行い，工業技術者としての規範意識，倫理観等をもって，自ら考え，課題を探究し解決する実践的な態度を育成するための学習活動を充実する。

○　実習（実験）においては，グループ内で実習工程や実験方法などについて話し合い，どのような結果が得られるかを予測させ，得られた結果について比較・検討し，なぜ，そのような結果となったのか，その原因について，論理的に自分の考えをまとめて討議するなどの学習活動も充実する。

○　報告書の作成においては，読解力や情報を選択する能力を身に付ける観点から，図書館やICTなどを活用して調査し，得られたデータや結果と自らの有する知識・経験と結び付けて分析・評価，比較・考察，批判的検討を加え，自分の意見を論述するなどの学習活動を充実する。
○　授業で自分の考えを表現する場合は，ICTを活用するなどして情報を的確に理解し，小グループで討議したり，討議した内容を発表したりするなどの学習活動を充実する。

＜ 商　業 ＞

商業科においては，ビジネスの諸活動に関する具体的な事例を取り上げ，考察，討論，発表などを行う学習活動や，ビジネスに関する具体的な課題を設定し，地域や産業界と連携して，様々な情報を収集・分析・評価し，発表するなどの学習活動を充実する。
○　マーケティング分野においては，商品開発に関する課題を設定し，マーケティングに関する知識と技術を活用して市場調査を行い，その結果を踏まえて商品企画書を作成して地域や産業界にプレゼンテーションを行うなどの学習活動を充実する。
○　ビジネス経済分野においては，企業の経済活動について具体的な事例を取り上げ，経済や法規などに関する知識を活用して，考察や討論を伴うケーススタディを行うなどの学習活動を充実する。
○　会計分野においては，財務指標の具体的な例を用いて，会計に関する知識と技術を活用して企業の実態の分析を行い，その結果を表現するなどの学習活動を充実する。
○　ビジネス情報分野においては，ビジネスに関する情報を処理する課題を設定し，情報の処理や活用に関する知識と技術を活用して情報の収集・処理・分析を行い，報告書や提案書を作成してプレゼンテーションを行うなどの学習活動を充実する。

＜ 水　産 ＞

水産科においては，水産や海洋の各分野における基礎的・基本的な知識，技術及び技能を確実に習得させ活用する能力を育成する観点から，実習(実験)におけるグループ活動などを通して，安全を確認し合ったり理論的に討議したりするなどの言語活動を行い，水産業及び海洋関連産業に従事する者としての規範意識，倫理観等をもって，自ら考え，課題を探究し解決する実践的な態度を育成するための学習活動を充実する。
○　実習(実験)においては，事前に安全や実習の工程等の注意事項について確認を行うとともに，実習中においては，コミュニケーションを図りながら事故等の防止に努める。また，得られた結果について比較・検討し，その原因についてグループ内で討議するなどの学習活動を充実する。
○　報告書については，従前から自分の考えをまとめ，誰が読んでも分かるように書くこと，さらに，考察は得られたデータや結果の意味を考え，図書館や ICT などを活用して，調査することから読解力を身に付けたり，情報を選択する能力を身に付けたりして，まとめることなどの学習活動を充実する。
○　ICT の活用，グループでの実習の工程や方法等についての検討結果の予想，事後に発表会を行うほか，校内外においてポスターセッションを行うなどの学習活動を充実する。

＜ 家　庭 ＞

家庭科においては，生活産業への消費者ニーズの的確な把握やサービス提供等を行う企画力・マネジメント能力を身に付け，生活文化を伝承し創造する人材を育成する観点から，衣食住，ヒューマンサービスなどの各分野における基礎的・基本的な知識，技術の定着を重視するとともに，就業体験等，実社会や職業との関わりを通じて，コミュニケーション能力等に根ざした実践力を高める学習活動を充実する。

○　「課題研究」においては，調査，研究，実験，産業現場等における実習，作品製作等の成果や課題について報告書の作成や発表を行う，文章や資料等を読んだ上で，知識や経験に照らして多面的・多角的に自分の考えをまとめて論述するといった学習活動を充実する。

○　子供や高齢者に関する情報を的確に理解したり，自分の考えを適切に伝えたりするなど，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合う等互いの考えを深める上で必要なコミュニケーション能力を高める学習活動を充実する。

○　自分の考えや与えられたイメージを，創意工夫したりアイディアを生かしたりするなど，適切な表現方法により創造的に製作するなどの学習活動を充実する。

＜ 看　護 ＞

看護科においては，国民の健康の保持増進に寄与する能力の育成を図る観点から，看護実践の場における体験を通して看護の本質とその社会的な意義を理解する学習活動や看護の基礎的・基本的な知識と技術を用いて臨床における課題解決を図る学習活動を充実する。

○　看護の専門性を深めるために，校内実習や看護実践の場における実習の後には，その体験を振り返り，十分な時間をかけて考察し，記録にまとめ，発表及び協議するなどの学習活動を充実する。また，看護科の各科目で学習した知識・技術を活用して，患者を科学的な視点で観察し，看護上の問題に対して実施した援助の結果を分析・評価して表現するなど，臨床における問題解決の思考力を養う学習活動を充実する。

○　医療職者として必要な倫理観やコミュニケーション能力及び豊かな人間性を育むために，多様な実習場面で人間の生命や人権を尊重し，患者や保健医療福祉関係者，仲間などと互いの考えを伝え合うなどして相互理解を深め，信頼関係を構築し，協働する学習活動を充実する。

＜ 情　報 ＞

情報科においては，情報の各分野に関する知識・技術の習得や情報の意義や役割の理解などを通して，情報産業が求める創造力，問題解決力や統合力，職業倫理等の創造的な能力と実践的な態度を身に付けた人材の育成を重視する。言語活動を取り上げる際には，生徒が主体的に考え、討議し、発表し合う学習活動を取り入れ、言語などを活用して，新たな情報を創り出したり，分かりやすく情報を表現したり，正しく伝達したり，他者と共同して問題を適切に解決したりする学習活動を充実する。

○　基礎的分野においては，高度な情報技術者が共通に身に付けるべき情報の表現と管理，問題の発見・解決，情報技術等に関する基礎的な知識・技能や態度を身に付けさせるために，情報技術者の役割や使命・責任，情報技術の適切な選択・活用，情報の文書化の重要性・必要性，問題解決の過程と結果の評価・改善等について，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うなどの学習活動を充実する。

○　システムの設計・管理分野においては，システム全体の設計・構築や管理・運営を担う等の高度な情報技術者が必要とする知識・技術や態度を身に付けさせるために，問題解決の目的に応じたアルゴリズムの選択・改善，ネットワークやデータベースの運用管理・セキュリティ管理・障害管理の重要性・必要性，情報システムの開発過程や結果の評価・改善等について，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うなどの学習活動を充実する。

○　情報コンテンツの制作・発信分野においては，様々な表現メディアを駆使して情報コンテンツを制作するとともに適切に発信できる高度な情報技術者が必要とする知識・技能や態度を身に付けさせるために，情報メディアの社会や情報産業における役割や影響，社会生活における情報デザインの目的・役割や重要性，情報コンテンツの開発過程や結果の評価・改善等について，生徒が主体的に考え，討議し，発表し合うなどの学習活動を充実する。

＜ 福　祉 ＞

福祉科においては，社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる観点から，社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的，体験的に習得させ，社会福祉の理念と意義を理解させるとともに，社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する学習活動を充実する。

○　社会福祉の専門性を深めるために，校内実習や介護実践の場における実習の後には，その体験を振り返り，十分な時間をかけて考察し，記録にまとめ，発表及び協議するなどの学習活動を充実する。また，福祉科の各科目で学習した知識・技術を活用して，福祉・介護を科学的な視点で観察し，社会福祉の問題に対して実施した援助の結果を分析・評価して表現するなど，問題解決の思考力を養う学習活動を充実する。

○　社会福祉人材として必要な倫理観やコミュニケーション能力及び豊かな人間性を育むために，多様な実習場面で人間の尊厳の尊重や自立支援の必要性を前提とし，高齢者・障害者や保健医療福祉関係者などと互いの考えを伝え合うなどして相互理解を深め，信頼関係を構築し，協働する学習活動を充実する。

◎総合的な学習の時間

問題の解決や探究活動の過程においては，他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や，言語により分析したり，まとめたり，表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。

○　探究的な学習活動を充実するため，PISA 型読解力[*3] における読解のプロセスを参考とした「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」という探究の過程を重視する。
○　多様な情報の入手，他者の尊重と自らの役割の自覚，交流の広がりと深まりの実現に向けて，他者と協同して取り組む多様な学習活動を行う。
○　体験したことや収集した情報を整理したり，分析したりして思考する活動へと高めるとともに，他者に伝えたりまとめたりして自分の考えを明らかにする学習活動を行う。

◎特別活動

特別活動においては，よりよい生活や人間関係を築く力，社会に参画する態度や自治的能力を育成する観点から，自己の考えや思いを自分の言葉で適切に表現するとともに，考え方の違いや多様性を尊重しながら集団として合意形成を図り協同的な問題解決を目指す活動を充実する。特に，体験的な活動の後には，体験を通して感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り，文章等でまとめたり，発表し合ったりする活動を重視し，他者と体験を共有して幅広い認識につなげる必要がある。
○　望ましい人間関係を主体的に形成し，ホームルームや学校づくりに参画するとともに，生活の中で起こる様々な問題や課題について積極的に取り組み，解決していこうとする自主的，実践的な態度を育成するため，例えば，「ホームルーム内の組織づくりと役割の遂行」，「自主的・自律的な活動やルールと集団生活の向上」，「ホームルーム生活の充実のための工夫」などのような題材を設定し，グループやホームルーム全体で話し合う活動などを展開する。
○　男女相互の理解を一層深めるとともに，人間として互いに協力し尊重し合う態度を養い，家庭や社会における男女相互の望ましい人間関係の在り方や男女共同参画社会などについて幅広く考えていくため，例えば，「男女相互の理解と協力」，「人間の尊重と男女の平等」，「異性交友の望ましい在り方」，「男女共同参画社会と自分の意識」などのような題材を設定し，アンケートやインタビューを基に話し合ったり，新聞やテレビ等の資料を基に話し合ったり討論したりして展開する。
○　教科・科目あるいは類型やコースを適切に選択し，意欲をもって進んで学習に取り組み，充実した学校生活を送るとともに，自己の個性を伸ばす観点から，ガイダンス機能の充実を図るとともに，例えば，「選択教科・科目の理解と私の選択」，「先輩に学ぶ類型やコースの選択」などのような題材を設定し，選択教科・科目をどのような視点で選択したらよいかを話し合ったり，どのような理由で，どのような類型，コースを選択しようとしているかを互いに発表し合ったりする活動を展開する。
○　将来の社会的・職業的自立のために必要な望ましい勤労観・職業観を確立するため，例えば，「職業と仕事」，「働くことの意義と目的」，「職業生活」，「働くことと生きがい」などのような題材を設定し，調査やインタビューを基に話し合ったり，発表やディベートを行ったりするなどの活動を展開する。

---

*3　4 ページ脚注 1 参照

（３）指導事例

これまで述べた言語活動の意義や指導の在り方などを踏まえ，参考となる具体的な指導事例を以下に掲載する。

指導事例は，「第１章　言語活動の充実に関する基本的な考え方」及び「第２章　言語の役割を踏まえた言語活動の充実」を踏まえ，国語科をはじめとした教科等の取組を収集した。これらは，新しい高等学校学習指導要領が全面実施される以前の実践であるが，可能な限りその趣旨を考慮し，言語活動の充実に資するものを収集している。

ア　指導事例の示し方

各指導事例は，一つの事例を見開き２ページで示し，左側のページは【学習活動の概要】，右側のページは【解説】としている。概ね次のような構成を基本としているが，各教科等の特性に応じて工夫している。

【学習活動の概要】

（文頭に，教科・科目等名，言語活動の特色を記述。）

１　単元（題材）名

２　単元（題材）の目標

３　単元（題材）の評価規準

４　取り上げる言語活動と教材等（単元の概要）

５　単元（題材）の指導計画

（評価規準は，新学習指導要領を踏まえたものとしている。）

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

【言語活動の充実の工夫】

イ　指導事例の活用

各高等学校においては，国語科以外の各教科等の授業においても言語活動を取り入れた学習活動が行われてきたところであるが，以下の事例を参考に，これまでの取組を見直し，それぞれの教科等の目標を実現するため，効果的な指導に改善していくきっかけにすることが望まれる。

見直しに当たっては，これまで行ってきた言語活動を把握，検証することが求められる。その上で，指導計画の作成に当たっては，各教科等の目標と指導事項との関連，教材や教具について十分研究し，効果的な指導を行うための言語活動の工夫・改善に向けて検討する必要がある。

その際，言語活動を充実すること自体が目的ではなく，言語活動により，各教科・科目等の目標に即し，基礎的・基本的な知識及び技能の習得，これらを活用して課題を解決す

るために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力を育むことを目指すことに留意する必要がある。このため，基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るための繰り返し学習等を削減したり，話合いの時間を大幅に増やしたり，新たに言語活動のための単元を特設したりするなどの対応は必ずしも必要ではない。

なお，平成 25 年の PISA 調査結果では，それまで課題とされてきた読解力をはじめ，各分野において，経年比較可能な平成 15 年以降で順位・得点とも過去最高の成績となっている。

こうした結果の背景には，基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力などの確かな学力を育成する取組などが着実な成果を上げたものと考えられる。

高等学校においても，これらの能力を一層育成していくため，引き続き言語活動を充実し，授業の改善に努めることが必要である。

言語活動の優れた指導事例は，以下に示すもの以外にも，これまでに各高等学校において多くの蓄積があると考えられ，それらを学校内で共有することが求められる。また，教育委員会等においても，高等学校のみならず小・中学校等も含めて，優れた事例について，域内で把握，共有，普及していくことが期待される。これら学校や設置者の取組により，創意工夫を生かした様々な指導手法が開発・実践されることが望まれる。